

日蓮宗 常栄山 本照寺だより

第67号

厚木市下古沢133
TEL・046-247-1156
FAX・046-247-1156
振替・0230-7-35749
(加入者名・本照寺)
発行所
本照寺・須藤教裕
携帯090-9151-6438

日蓮聖人 滅後735年

■10月の第3土曜日、15日の午後2時からお会式法要が執り行われました。これは日蓮聖人のご命日（10月13日・735年目）に向けて恩に報い

感謝の気持ちを持ち、捧げを式典です。晴天のもと、稚児行列は法要へ参列（稚児10名）し、式後は昨



2時から法要に向け、世話人さんの持つ錫杖（しゃくじょう）を先頭に2基の万灯とお稚児さんが続く



年から始まった写経を7名の方々が行いました（下記参照）。また夜店の出店（9店舗）の中、万灯の奉納がなされました。



④ 立正佼成会マトイ
⑤ 中分万灯
⑥ 立正佼成会万灯



い」の皆さんが奉納してくださいました。■殊には総代、世話人の方々

届いたお札は？

■このたびお届けたお札は、たお札ですが、「御守護札」は玄関出入り口の

手荒れの中に割れている爪に前歯のゆがみにここにここに

母さんを見つけたら、亡くなる間際まで新聞を読んでいた

母さん今日も私は母さんと生きている

母さんと新聞を読む（産経新聞から）

本照寺で除夜の鐘を

■「気持ち引き締めます。でもここ数年、除夜の鐘まで起きているのは私一人。

「外」にお貼りください。また台所へ貼るお札「三

寶大荒神札・さんぼうだいこうじんふだ」は本照寺本堂内・お賽銭箱右側に奉安してありますので、ご希望の方は本堂にてご自由にお持ちください。また「日蓮宗暦」は適宜ご利用ください

■古いお札は本堂前の「お焚きあげ箱」へどうぞ。12月10日から本堂前へ設置いたします。

本照寺以外のお札類でも結構です。燃えない物はご遠慮ください（無料）。

忘れられないケーキの味
神奈川県藤沢市 水口ヒデ子 72

■次男が中学3年生の頃、反抗期になった。「うるせー。バカヤロー」と家の中でも外でも、大暴れすることがよくあった。クリスマスイブの寒空の下、息を切らせて帰ってきた。小遣いを前借りさせてと言ったので、私が「またゲームセンターでしよ？」と聞くと、「ちがうよ、今、ケーキ店の前で、おばちゃんに立ちな



がら声をかけて売ってる。一個でも買ってあげたいんだ。私はハッとした。この子は本当は優しい子だったんだ。お金を手渡すと家を飛び出して、ケーキを抱えて帰ってきた。家族みんなで食べた。さまままなことがあった息子だが、親の私が信じないで誰か信じる、という気持ちになつた。その年明け頃から嵐のような状態が少しずつ落ち着いていき、息子は高校にも進学できた。あのときのケーキの味は、今も心の中に残っている。

のご協力、また祝儀をくださった85名、更には万灯奉納の方々、に、深甚の謝意を捧げます。

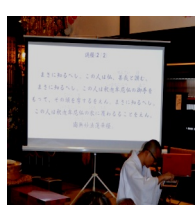
誠にありがとうございました。心から御礼申し上げます。（写真提供・本杉正行さん）

待ちしています。

■1月1日、午後2時から「新春盛運祈願祭」が執り行われます。お守りをお持ちでないお檀家の皆さんも、皆さんどうぞ新年のお目出たい中で、新たなスタートとしてご参拝くださいますように。サンドイッチの用意があります。（毎月1日の盛運祈願祭は午前9時からです）

写経

■2年目となったお会式での写経。副住職がプロジェクトを率いて、長短5種類のお経の内容を簡単に説明し、



参加者はその説明をもとに写経するお経を選び、筆ペンや鉛筆などでお経を写しました。



（お話）を申し上げます。暖かい焚き火や甘酒、玉こんにゃく、お酒を用意してお

『法名字形』『ご埋葬』はイシックスにお任せ下さい

字彫代 35,000円 税込
埋葬料 10,000円 税込
清掃・拝石メジ・香炉置交換（別途） 含みず

お墓 100
寺院墓地・墓石ひとすじに百年

本照寺様 出入り石材店
株式会社イシックス
0120-011140
isix.jp

「あらゆるヒトは二つの教育を持っている。その一つは他人から受ける教育であり、他の一つは、これよりももっと大切なもので、自らが自らに与える教育である」 ギボン（イギリス・歴史家）

◆日本には百年以上続く老舗が約1万5千2百社あるという。そして永続する企業を見ていくと、そこには大きな共通点があり、それはそのまま私たち人間の生き方とも繋がっているという。今、私たちが老舗に学ぶべきは何か。約50年間老舗を研究し自らもその教えによって道をひらいてきた社会教育家の田中真澄氏の言葉を紹介したい（以下は月刊「到知」からの一部抜粋です）。

富山の薬売りに学ぶ

■私が老舗に興味を持つようになったのは、かれこれ50年前です。大手新聞社に勤務していた頃、新聞を普及する営業活動のために富山県に3年間、赴任したことがきっかけでした。

仕事で接する人は誰も礼儀正しく、生活も質素で勤勉な人たちがばかりでした。感心してその背景を調べていく内に、3百年続く「越



利他と自己犠牲の精神を以て全国に薬を...

中富山の薬売り」の伝統があることに気付いたのです。

■当時はまだ約1万2千人も薬売りがいて、気が付くと私は商売のやり方や心構えなどを聞き取り、意欲的に研究を始めていました。

彼らは富山を離れて地方に営業に出向きます。見知らぬ土地で顧客を増やすには、厳しい環境に耐え、自己を抑制し、顧客にどこまでも尽くさなくてははいけません。徹底した利他の精神と自己犠牲の道を歩いた見返りとして、顧客が1人、2人と味方に付くようになっていった、といったことが分

効果的な外部の視線

日々の反省を行動に移すのは難しいもの。そんなとき、外部の協力を仰ぐことで、うまくいくことがあります。

慢性的な人手不足から、課題の対応が遅れがちな本照寺ですが、外部の方に協力をお願いしている行事は、反省・改善対応の流れがきち

ひとは、「お山しゅぎょう」これは企画・運営に檀信徒の方、OB・OGの若者が関わっています。もうひとつは、「お会式」。こちらには総代・世話人さんが関わっています。部だけでなく、日々の忙し

反省を行動へつなげるための外部の力（前編）

副住職のコーナー

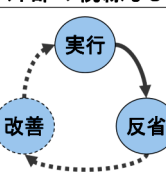


効果を得るポイント

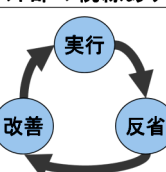
外部の視線を効果的にするために、自分自身が課題を、同じように解決していると思っ

さに流され、反省が改善対応に至らないことがあります。しかし、外部の視線が入ること、反省から改善対応へつなげやすくなります。約束を破りたくないという気持ちから、改善対応の実施率が上がるためです。さらに、外部の方の納得を得られるよう、反省の質も向上します。

外部の視線なし



外部の視線あり



■では、日本にはなぜこれほど老舗が多いのでしょうか

世界最古の企業トップ3がすべて日本にあった！

その理由の三つ

かつてきたのです。もし、薬売りが必要以上に欲をかき、儲け一辺倒になつていたら、とても3百年の伝統を築くことはできなかったでしょう。

■そして富山の薬売から教えられたこの利他の精神は私の仕事にもそのまま結びつきま

老舗への憧憬が次第に高まるにつれて、「人間は志に生きることこそ最も理想的なのだ」という確信が強くなり、昭和54年、43歳の時に大手新聞社を辞めて社会教育家として独立。人の心に勇気や希望を与える仕事で身を立てることを決意したので

以来、私は36年間、講演と執筆だけで生きてきました。あのまま大企業にいたら、今の多くの人材に恵まれ社員研修に、講演にと全

国を東奔西走する今日の充実した私とはほど遠い生活を送っていたことでしょう。

■さて、百年以上続く日本

本老舗企業は約1万5千200社あります。韓国の中央銀行である「韓国銀行」が2008年にまとめた報告書によれば、2百年以上の老舗企業は世界41カ国で5千586社が確認されていて、うち日本は3千146社（全体の56%）と断トツです。

ちなみに第2位はドイツ

仏教精神の利他行

うか。1番目の理由は日本人の勤勉性。つまり、仕事に手を抜かず、一途に打ち込む国民の習性です。16世紀、日本にやってきたカトリック宣教師のフランシスコ・ザビエルは、慎ましく勤勉な日本人の民族性に驚き、「500年後、日本人は世界を代表する民族になるだろう」と賞賛しています。

その言葉のとおり、日本人の勤勉、儉約の精神は今や世界中の人々が認めるところとなりました。

■2番目の理由は、顧客のために誠心誠意尽くす

- ①金剛組（西暦578年）
- ②池坊華道会（587年）
- ③西山温泉慶雲館（705年）

編集後記

■先代・院首の葬儀にマイクセット（マイク2本とスピーカー2個）を依頼した。マイクセットは本照寺にもあるが準会員である。看板などのセット料金「26万円」とある。さす

がに驚き以外、何者でもない。「おいおい買えるだろう！」

はたして農協は農協の仲介料を取っているのか？そのマイク業者は農協に尋ねたい所だが農協を通して来たか？その体質を改革しようとしている。なるほど、国が今その体質を改革しようとしている。

（837社）、第3位はオランダ（222社）、第4位はフランス（196社）、第5位はアメリカ（14社）、第6位は中国（9社）などの順で韓国はゼロでした。何かと日本に批判的な韓国ですら日本は世界に最たる老舗大国であると認めているのです。

日本独自のものです。

■もう一つ、私は老舗といわれる企業や店舗を訪れたときに驚くことがありま

す。どこも立派な神棚や仏壇が備えられているのです。店主や従業員は毎日毎朝、神仏に向かって伝統を守り抜くことを誓います。私はこれを祈願ならぬ「祈誓・きせ」と呼んで、私自身も日々実践しています。

■私はこのことをよく講演会でお話しし、実践を勧めるのですが「両親の笑顔を頭に浮かべ神仏に手を合わせるようになった」という声を頻繁に耳にするところをみると、あながち独りよがりではなさそうです。先人への感謝を忘れないでいることも人や企業が繁栄する大切な要素なのかもしれません。

■今、嘆かわしく思うのは、日本人が個人主義、利己主義に陥ってしまったことです。企業も人も利他の精神があつてこそ永続するの

に、それを失った日本人がこれからどうなっていくのか、とても心配です。



田中真澄（たなか・ますみ。昭和11年生まれ）。東京教育大を卒業。日本経済新聞社に入社。昭和54年、同社を退社。「ヒューマンスキル研究所」を設立。著書多数。全国講演は7千回を超える。

「私たちが春に美しい桜の花を愛でることができるのは、桜の木を植えてくださった名も知らぬ先人のおかげです」

上甲 晃（じょうこうあきら・志ネットワーク「青年塾」代表。月刊「到知」・松下幸之助に学んだ人生の要訣から）